

【書式B】
(様式1)

施設名 東京文化財研究所

処理番号 7111

業務実績書

研究所 No.81

中期計画の項目	7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
プロジェクト名称	無形文化遺産に関する助言 ((1))		
【事業概要】 地方公共団体等の依頼に基づき、それらの実施する無形文化財・無形民俗文化財の調査・保存・修復・整備・活用などの事業に対し助言を行う。			
【担当部課】	無形文化遺産部	【プロジェクト責任者】	無形文化遺産部長 宮田繁幸
【スタッフ】 高桑いづみ、飯島 満、俵木 悟、菊池理予（以上、無形文化遺産部）			
【主な成果】 平成 22 年度は、無形文化遺産の保存・伝承・活用等に関して、文化庁伝統文化課に対する無形文化遺産保護条約に関する助言をはじめ、26 件の助言を実施した。			
【年度実績概要】 平成 22 年度は、無形文化遺産の保存・伝承・活用等に関する各種委員会等へ出席し、以下の助言を行った。 1 文化庁伝統文化課 3 件 2 財団法人文化活性化国民協会への助言 3 件 3 財団法人日本青年館への助言 4 件 4 日本芸術文化振興会への助言 3 件 5 静岡県教育委員会への助言 3 件 6 日本放送協会への助言 1 件 7 日本ユネスコ協会連盟への助言 3 件 8 外務省広報文化交流部国際文化協力室への助言 1 件 9 早稲田大学演劇博物館への助言 1 件 10 神田鍛冶町 1 丁目町会への助言 4 件			
【実績値】			
【備考】			

【書式B】
(様式2)

施設名 東京文化財研究所

処理番号 7111

自己点検評価調書

研究所 No. 81

1. 定性的評価

観点	適時性	発展性	継続性			
判定	A	A	A			
備考						

2. 定量的評価

観点	助言件数					
判定	A					
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本事業は、依頼を受けて行うものであり、あらかじめ個々の助言について予定することは出来ないが、本年度も各種委員会等への出席及び助言の依頼がコンスタントに寄せられており、無形文化遺産分野での様々な要望に的確に対応できたものとする。以上の状況を総合的に判断して、Aと判定した。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	例年通り、多様な助言依頼に対応できており、計画は順調に達成できた。

【書式B】
(様式1)

施設名 東京文化財研究所

処理番号 7112

業務実績書

研究所 No.82

中期計画の項目	7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
プロジェクト名称	文化財の修復及び整備に関する調査・助言 ((1))		
【事業概要】 地方公共団体等の実施する文化財の調査・保存・整備・活用などの事業に対して援助・助言するために、文化財の修復及び整備に関する調査を行う。			
【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	保存修復科学センター副センター長 川野邊 渉
【スタッフ】 中山俊介、北野信彦、早川典子、加藤雅人、森井順之（以上、保存修復科学センター）、坪倉早智子（客員研究員）			
【主な成果】 今年度は、件数として40件を数え、指導助言先やその内容も多岐にわたり、複数回の指導助言に及んだ。今後も継続して指導助言を実施し適正に文化財が保存修復されるように努めるとともに、私たちが新たな知見を得て、的確な指導助言が行えるように努力する。			
【年度実績概要】 ・ 国宝高松塚古墳壁画の保存修復に関する指導助言（川野邊 渉、北野信彦、加藤雅人、早川典子、森井順之） ・ 特別史跡・キトラ古墳壁画の保存修復に関する指導助言（川野邊 渉、北野信彦、加藤雅人、早川典子、森井順之） ・ 厳島神社の保存修復に関する指導助言（川野邊 渉、北野信彦、早川典子、森井順之） ・ 国宝白杵磨崖仏の保存修復に関する指導助言（川野邊 渉、森井順之、早川典子、朽津信明） ・ 国宝都久夫須麻神社本殿の蒔絵修理に科する指導助言（北野信彦） ・ 国宝都久夫須麻神社本殿の彩色修理に科する指導助言（北野信彦） ・ 国宝瑞巖寺本堂の塗装彩色修理に関する指導助言（北野信彦） ・ 国宝三十帖冊子の修理材料選択に関する指導助言（早川典子） ・ 重要文化財・霧島神宮本殿の修復に関する指導助言（川野邊 渉、早川典子、森井順之） ・ 史跡大分高瀬石仏の保存修復に関する指導助言（川野邊 渉、森井順之） ・ 史跡大分元町石仏の保存修復に関する指導助言（川野邊 渉、森井順之） ・ 重要文化財・0.5t及び3tスチームハンマーの修復後モニタリングに関する指導助言（森井順之） ・ 重要文化財大谷磨崖仏の保存環境に関する指導助言（森井順之） ・ 日光二社一寺の世界遺産環境モニタリングに関する指導助言（川野邊 渉、森井順之） ・ 重要文化財岩崎邸金唐草紙に使用された塗料の分析（中山俊介、北野信彦、早川典子） ・ 重要文化財三河島鉄扉に使用されていた塗料の分析（中山俊介、早川典子） ・ 史跡佐渡金銀山遺跡の保存管理計画に関する指導助言（中山俊介） ・ 史跡菰山反射炉の保存修復に関する指導助言（中山俊介） ・ 史跡萩反射炉の保存修復に関する指導助言（中山俊介） ・ 重要文化財旧手宮鉄道施設の保存修復に関する指導助言（中山俊介） ・ 重要文化財旧日本郵船小樽支店の保存修復に関する指導助言（中山俊介） ・ 天野山金剛寺所蔵重要文化財大日如来像座像の修理に関する指導助言（川野邊 渉、早川典子） ・ 東京都指定文化財候補地の史跡整備に関する指導助言（北野信彦） ・ 京都市中出土歴史資料の保存修復及び分析に関する指導・助言（北野信彦） ・ 函館市立博物館所蔵革製上衣クリーニングに関する指導助言（早川典子） ・ 鳥取県指定有形民俗文化財「長谷寺の絵馬群」の保存修復に関する助言（加藤雅人） ・ 東京都中央区所蔵「震災橋梁復興図面」の保存修復に関する助言（加藤雅人） ・ 広島東照宮唐門部材表面の顔料調査に関する指導助言（北野信彦） ・ 熊本博物館所蔵赤色顔料付着瓦の調査に関する指導助言（北野信彦） ・ 松江歴史館整備事業に伴う近世出土漆製品の整理に関する指導助言（北野信彦） ・ 高知城下町西広小路遺跡出土漆製品の整理及び分析に関する指導助言（北野信彦） ・ 有岡城跡・伊丹郷町遺跡出土漆器の調査に関する指導助言（北野信彦） 他			
【実績値】 指導助言実施件数 : 40件			
【備考】			

【書式B】
(様式2)

施設名 東京文化財研究所

処理番号 7112

自己点検評価調書

研究所 No.82

1. 定性的評価

観点	適時性	継続性	正確性			
判定	A	A	A			
備考						

2. 定量的評価

観点	指導助言件数					
判定	A					
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	重要文化財を含む各種文化財の保存修復に関して、それぞれの保有団体、所有者の方々あるいは修復を担当する団体に対して、指導助言を行った。またその過程において、私たちも、現地を調査する機会を得、更に知見を得ることが出来た。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	今年度は、件数は40件と昨年よりも上回った。また、その内容も多岐にわたり、複数回の指導助言に及んだ。今後も継続して指導助言を実施し適正に文化財が保存修復されるように努めるとともに、私たちも新たな知見を得るように努力する。

業務実績書

研究所 No.83

中期計画の項目	7 地方公共団体等への協力等による文化財保護の質的向上		
プロジェクト名称	地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言 ((1))		
【事業概要】 地方公共団体等が行う遺跡、建造物等の調査・整備・修復・保存等について、専門委員会委員への就任等を通して、必要な事項に関し援助・助言を行う。			
【担当部課】	奈良文化財研究所	【プロジェクト責任者】	所長 田辺征夫
【スタッフ】			
【主な成果】 地方公共団体等が行う文化財の調査・保存・修復・整備・活用等の事業について、専門委員会委員への就任等を通して、建造物修理、史跡整備、出土文字資料調査、発掘調査等に関する専門的・技術的な助言を行った。援助・助言実施件数（出張依頼を受けた件数）332 件（委員会出席 159、審議会出席 18、指導 73、調査 19、講演 28、その他 35）			
【年度実績概要】 地方公共団体等が行う文化財の調査・保存・修復・整備・活用等の事業について、専門委員会委員への就任等を通して、建造物修理、史跡整備、出土文字資料調査、発掘調査等に関する専門的・技術的な助言を行った。 ①地方公共団体等による文化財建造物等の調査、修復、整備について、学術的、技術的側面からの具体的な援助・助言を現地等で行った。（「宇治の文化的景観」における伝統的建造物の保存・整備に関する調査研究、相川地区文化的景観 景観変遷・景観構造調査、京都岡崎の文化的景観に関する保存計画策定調査、「宇治の文化的景観」整備に伴う宇治橋通りの調査研究、萬翠荘に係る学術調査、倉見屋荻野家住宅調査など） ②地方公共団体等による遺跡の発掘調査における調査方法や検出した遺構の性格、建物遺構の構造的特徴についての援助・助言、遺跡・名勝などの保存管理や整備事業に係る調査、価値評価、実施内容、構想・計画の立案などの援助・助言を行った。（小谷地遺跡出土遺材についての建築史的研究、第一次大極殿院建造物復元整備にかかる調査委託、天良七堂遺跡の総合的探査、平成 22 年度大宰府史跡・蔵司地区における総合的探査業務、三軒屋遺跡総合的探査、埋蔵文化財発掘調査に係る青銅器科学分析業務委託、田熊石畑遺跡武器形青銅器の保存処理及び保存台作製、宇治橋擬宝珠成分分析、土壌水分の蒸発による史跡ガランドヤ古墳石室内環境の変化に関する調査、東名遺跡出土動物遺存体調査、長割遺跡の動物遺存体調査、六反田南遺跡Ⅳにおける動物遺存体の同定、永保寺開山堂の年輪年代調査など） ③文化庁事業「発掘調査の手引き」の刊行は、1966 年の初版以来、改訂が重ねられ、平成 21 年度には、「集落遺跡発掘編」及び「整理・報告書編」が刊行されたところである。このたび、本研究所は文化庁の委託を受けて、文化庁文化財部記念物課及び地方公共団体と協同して、「（仮称）発掘調査の手引き―集落遺跡以外の発掘調査編―」の作成作業を行った。			
【実績値】 援助・助言実施件数（出張依頼を受けた件数） 332 件 （委員会出席 159、審議会出席 18、指導 73、調査 19、講演 28、その他 35）			
【備考】			

【書式B】
(様式2)

施設名 奈良文化財研究所

処理番号 7113

自己点検評価調書

研究所 No.83

1. 定性的評価

観点	継続性	適時性	発展性			
判定	A	A	A			
備考 継続性：依頼機関への対応 適時性：実施業務に適時・適切に対応 発展性：的確な援助・助言による実施業務の順調な実現						

2. 定量的評価

観点	援助・助言実施件数					
判定	A					
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	地方公共団体等が行う遺跡、建造物などの調査・整備・修復・保存等に関して、援助・助言を的確に行うことができた。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	現在、全国で行われている遺跡の発掘調査、保存・整備・復原事業や、建造物の調査、修理事業について、各担当機関から専門的な援助・助言を求められ、適時・適切に対応している。奈文研に対する社会的要求に応えるべく、今後も的確に対応する。

【書式B】
(様式1)

施設名 奈良文化財研究所

処理番号 7114

業務実績書

研究所 No.84

中期計画の項目	7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上				
プロジェクト名称	地方公共団体が行う平城京城発掘調査への援助・助言（（1））				
【事業概要】 平城宮跡の隣接地や平城京の寺院跡などの重要地区内において、近年とみに小規模開発が進んでいる。この開発に対して宮及び宮周辺における奈良時代を含む各時代の土地利用の実態把握と遺構深度などを明らかにする目的で発掘調査を実施した。					
【担当部課】	都城発掘調査部（平城）	【プロジェクト責任者】	副所長 井上和人		
【スタッフ】 小池伸彦、国武貞克、芝康次郎、神野恵、森川実、城倉正祥、中村亜希子、清野孝之、今井晃樹、中川あや、渡辺晃宏、馬場基、浅野啓介、桑田訓也、箱崎和久、大林潤、鈴木智大、海野聡 [以上、都城発掘調査部]					
【主な成果】 平成 22 年度は、平城宮・京城で、計 8 件の発掘調査を実施した。その結果、平城宮跡西北部では、平城宮の造作にともなう可能性がある奈良時代の整地土を検出し、平城京左京一条二坊十六坪では古代の柱穴 5 基と、土器や瓦を多量に含む南北溝 1 条を検出した。また、西大寺旧境内では古代と考えられる土坑 1 基と、L 字状に屈曲する溝 2 条を検出した。					
【年度実績概要】 平城宮に密接に関連する平城京城発掘調査への援助・助言は総数 5 件あり、そのいずれも開発行為に対する事前発掘調査である。発掘の総面積は 105 m ² 、調査期間は平成 22 年 5 月 6 日～平成 23 年 3 月 17 日の間で、延べ 40 日におよぶ。					
次数	調査地	調査原因	面積	期間	概要
470	平城京右 3.1.15	住宅建設	26 m ²	100506～100513	中世以降の柱穴、土坑、落ち込みを検出。
471	平城宮跡西北部	住宅建設	7.5 m ²	100517～100518	奈良時代の可能性がある整地土を確認。
472	平城京左 1.2.16	住宅建設	28 m ²	100531～100604	古代の柱穴 5 基と南北溝 1 条を検出。
473	西大寺旧境内	住宅建設	15 m ²	100922～101001	古代と考えられる土坑 1 基と、L 字状に屈曲する溝 2 条を検出。
479	興福寺旧境内	住宅建設	18 m ²	110308～110317	時期不明の庭園とみられる深さ 40 cm の落ち込みを検出。
480	平城宮北方	住宅建設	10.5 m ²	110215～110302	古墳の墳丘の一部と周溝を検出した。
【実績値】 論文等数：1 件（①） 出土品：瓦磚など 5 箱、土器 5 箱、金属器・木器・石製品など 1 箱 記録作成数：実測図 18 枚、遺構写真（4×5）18 枚					
【備考】 ①中村亜希子「平城京左京一条二坊の調査―第 472 次」『奈良文化財研究所紀要 2011』2011（予定）					

【書式B】
(様式2)

施設名 奈良文化財研究所

処理番号 7114

自己点検評価調書

研究所 No. 84

1. 定性的評価

観点	適時性	継続性	正確性			
判定	A	A	A			
備考 適時性：奈良県教育委員会および奈良市教育委員会の要請に迅速に対応し、発掘調査を実施した。 継続性：データ収集のため、規模の大小にかかわらず発掘調査を継続的に実施した。 正確性：文化財行政に協力し、正確な調査を実施した。						

2. 定量的評価

観点	援助・助言 実施件数					
判定	A					
備考 対象地区内の開発行為に、すべて対応した。						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	地方公共団体から要請のあった緊急性を要する発掘調査に効率よく対応し、平城宮・京についての基礎資料を継続的に蓄積していることからAと判断した。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	平城宮・京の構造や変遷を検討するために有効な基礎データを得た。

中期計画の項目	7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上				
プロジェクト名称	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区の発掘調査への援助・助言 ((1))				
【事業概要】 飛鳥・藤原地域は、わが国古代国家成立期の舞台であり、6世紀末から8世紀初めにいたる間、政治・経済・文化の中心であった。本研究は、地方公共団体と連携し、発掘調査を通じて古代国家の具体像を復元すべく学際的な調査研究を行うものである。その成果を広く公開するとともに、遺跡の保存・活用についても取り組んでいる。					
【担当部課】	都城発掘調査部(藤原)	【プロジェクト責任者】	都城発掘調査部長 深澤芳樹		
【スタッフ】 玉田芳英、次山 淳、降幡順子、石橋茂登、山本 崇、廣瀬 覚、青木 敬、木村 理恵、小田裕樹、若杉智宏、高橋 透、森先一貴、庄田慎矢、諫早直人、石田由紀子、黒坂貴裕、番 光、高橋知奈津〔以上、都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区)〕、井上直夫、栗山雅夫、岡田 愛〔以上、企画調整部〕、高田貴太〔国立歴史民俗博物館〕					
【主な成果】 藤原宮跡において地方公共団体が行う発掘調査への援助・助言の事業は6件あり、主に現状変更に対する事前調査である。緊急性を要する事前調査に効率よく対応し、藤原宮ならびに飛鳥・藤原地域についての基礎資料を継続的に蓄積している。特に、藤原宮跡東方官衙南方の調査では、掘立柱建物2棟、掘立柱塀1条、宮造営にかかわるとみられる南北溝1条などを確認した。					
【年度実績概要】 藤原宮跡および飛鳥・藤原地域において地方公共団体が行う発掘調査への援助・助言の事業は6件あり、主に特別史跡内の現状変更に対する事前調査である。					
次 数	調査地	調査原因	面積	調査期間	概 要
162-1次	藤原宮跡東方官衙南方	住宅建設	28㎡	2010. 4. 22～4. 30	掘立柱建物等検出
162-2次	藤原宮跡大極殿院南門他	現状変更	4㎡	2010. 4. 28	遺構面に達せず。
162-3次	雷丘	植栽整備	4,049㎡	2011. 2. 4	遺構面に達せず
162-4次	藤原宮跡内裏・大極殿院	現状変更	18㎡	2011. 3. 4、3. 15	遺構面に達せず
162-5次	和田廃寺	道路拡幅	32㎡	2011. 3. 9	既調査の遺構面を確認
162-6次	山田寺跡	水路改修	35㎡	2011. 3. 23～3. 25、 3. 29、3. 30	瓦組暗渠等検出
以下、藤原宮跡東方官衙南地区でおこなった調査(第162-1次)の成果を述べる。 本調査では、藤原宮期と推定される建物や塀を複数確認した。なかでもSB10920は柱穴規模が大きく、正殿クラス的大型建物と推定され、ここが官衙中枢部であった可能性を示唆する。既往の調査で、藤原宮大極殿造営に先行して南北方向の運河SD1901Aをはじめ、宮造営にかかわる水路が設けられていたことが明らかになっている。今回の調査で、宮域全体の整地以前に南北方向の溝SD10924が確認された。層位からみて本遺構は、藤原宮造営期の大型溝である可能性がたかい。なお、調査区内では、遺構の重複関係から4期にわたる遺構変遷が考えられる。 出土遺物は、古代の土器以外に縄文時代前期の土器がまとまって出土したことが特記される。近傍では類例が稀少であり、調査区および周辺で縄文時代前期から土地利用があったことがはじめて推定できた。					
					
第162-1次調査区全景(南から)					
【実績値】 論文等数 2件(①・②) 出土遺物 土器コンテナ1箱、丸平瓦コンテナ1箱、石器コンテナ1箱(以上162-1次) 記録作成数 遺構実測図3枚、写真(4×5)6枚(以上162-1次)、遺構実測図3枚(162-6次)					
【備考】 ①「2010年度 都城発掘調査部(飛鳥藤原地区)小規模調査等の概要」『奈良文化財研究所紀要2011』2011.6(予定) ②青木 敬「東方官衙南地区の調査—第162-1次」『奈良文化財研究所紀要2011』2011.6(予定)					



第162-1次調査区全景(南から)

【書式B】
(様式2)

施設名 奈良文化財研究所

処理番号 7115

自己点検評価調書

研究所 No.85

1. 定性的評価

観点	適時性	継続性				
判定	A	A				
備考 適時性：開発行為に対する迅速性、地方公共団体の文化財行政に対する協力。 継続性：飛鳥・藤原地域に関する遺跡情報の収集のために、規模の大小にかかわらず、調査を継続して行った。						

2. 定量的評価

観点	援助・助言数					
判定	A					
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	年間6件の案件に対して、迅速かつ適切に対応し、地方公共団体の行う埋蔵文化財行政に対して協力することができた。また、これらの調査を通して継続的に遺跡のデータを収集し、蓄積を図ったことから、総合的にAと判定した。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	緊急性を要する事前調査に効率よく対応し、藤原宮並びに飛鳥・藤原地域についての基礎資料を継続的に蓄積している。

【書式B】
(様式1)

施設名 奈良文化財研究所

処理番号 7211

業務実績書

研究所 No.86

中期計画の項目	7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
プロジェクト名称	埋蔵文化財担当者研修 ((2) —①)		
【事業概要】 地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者に対する研修を実施する。 研修受講者のうち平均80%以上の者から「有意義だった」、「役に立った」と評価されるよう研修内容の充実を図る。			
【担当部課】	企画調整部 研究支援推進部総務課	【プロジェクト責任者】	企画調整部長 難波洋三 総務課長事務取扱 多 昭彦
【スタッフ】 森本 晋 [企画調整部]、廣中保彦、宮本隆行、岩永恵子、橋本牧枝 [以上、研究支援推進部] (研修内容に応じ、研究所職員の適任者及び外部の学識経験者が講師を行っている。)			
【主な成果】 遺跡の発掘調査や保存・整備等に関し、必要な知識と技術の研鑽を図るため、地方公共団体等の埋蔵文化財担当者を対象として、専門研修11課程の研修を実施し、延べ137名が受講した。 研修受講者全員に対するアンケート調査では、全員から「有意義だった」「役に立った」との回答を得ており、充実した研修が実施できた。			
【年度実績概要】 専門研修11課程を実施し、延べ137名が受講した。 また研修受講者に対し、「今回受講した研修が『有意義だった』あるいは『役に立った』と思うか、思わないか」のアンケート調査を行った結果、100%の者から『思う』の回答を得た。			
専門研修	建築遺構調査課程 古代・中近世瓦調査課程 三次元計測課程 保存科学Ⅰ(無機質遺物)課程 保存科学Ⅱ(有機質遺物)課程 遺跡地図情報課程 自然科学的年代決定法課程 報告書作成課程 出土文字資料調査課程 中近世城郭調査整備課程 生物環境調査課程	実施期日(日数) 6月14日 ～ 6月18日 (5日) 9月1日 ～ 9月7日 (7日) 9月27日 ～ 10月1日 (5日) 10月6日 ～ 10月15日 (10日) 10月18日 ～ 10月26日 (9日) 11月16日 ～ 11月19日 (4日) 11月29日 ～ 12月3日 (5日) 12月9日 ～ 12月17日 (9日) 1月17日 ～ 1月21日 (5日) 1月27日 ～ 2月3日 (8日) 2月15日 ～ 2月23日 (9日)	定員 受講者数 満足度 12名 16名 100% 15名 18名 100% 10名 11名 100% 10名 12名 100% 10名 5名 100% 16名 5名 100% 12名 5名 100% 16名 26名 100% 10名 15名 100% 20名 18名 100% 12名 6名 100%
【実績値】 実施課程数 11 課程 受講者数 137 人 受講者の満足度 100%			
【備考】 7/6～7/22 実施予定であった文化財写真Ⅰ(基礎)課程及び7/22～8/5 実施予定であった文化財写真Ⅱ(応用)課程については、受講希望者が定員(各10名)を大幅に下回ったため中止した。			

【書式B】
(様式2)

施設名 奈良文化財研究所

処理番号 7211

自己点検評価調書

研究所 No. 86

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	継続性	
判定	B	A	A	A	A	
備考 適時性：研修の需要・必要性、公共性、緊急性への対応 独創性：研修内容のオリジナリティ、新規性、卓越性 発展性：発掘・保存・整備等に関する技術の全国的な水準向上 効率性：時間的投資、人的投資、設備的投資上の効率性 継続性：研修の継続的な実施						

2. 定量的評価

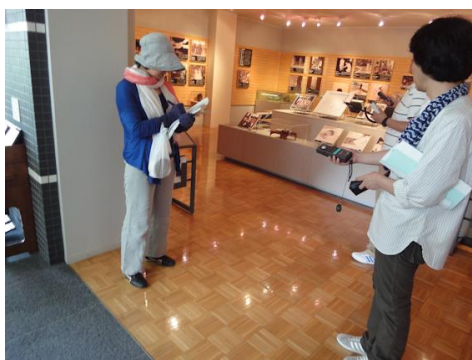
観点	研修実施回数	受講者数	受講者の満足度			
判定	B	B	A			
備考 実施課程数 11 課程 受講者数 137 人 受講者の満足度 80%以上						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	本年度の埋蔵文化財担当者研修は、当初予定していた13課程のうち2課程（文化財写真課程）を大幅な定員割れを理由に中止したこと、また、受講者数も連動して、年度計画の延160人に対して137人という結果となったが、満足度を評価して総合評価をAとした。当該課程の受講希望者が極めて少なかった理由としては、本務の都合等やむを得ない事情もあったかと思われるが、これまで継続してきた研修の問題点が、適時性及び独創性という課題となって現れたものと考え。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	今年度の研修実績について、受講者に対するアンケートでは、「今回受講した研修が『有意義だった』或いは『役に立った』と『思う』との回答が100%という結果ではあったが、文化財写真課程において大幅な定員割れが生じた。 本研究所では、この現実を真摯に受けとめ、次期中期計画策定に向けて、我が国の文化財保護行政のなかで、本研究所が研修を通して担うべき役割、並びに受講者側のニーズを最大限に反映させる研修の在り方について検討を重ねるとともに、各地方公共団体に対してアンケート調査も実施した。 次期中期においては、その結果を踏まえ、名称も「文化財担当者研修」にあらためて、真に地方公共団体が求める研修、さらには厳しい財政事情のなか、対費用効果も十分に勘案しながら研修事業の充実を図りたい。

中期計画の項目	7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
プロジェクト名称	博物館・美術館の保存担当学芸員研修（(2)-②）		
【事業概要】 近年、全国の博物館や美術館など文化財保存施設の多くにおいて、資料保存を担当する職員が配置されているが、専門教育を受けたものは少なく、また学ぶ機会も多くはないのが現状である。当研修は、資料保存担当者に、自然科学的見地からの文化財保存に関する基礎的かつ幅広い知識や技術を講義および実習を通じて学んでいただき、その資質の向上をもって文化財の保護に資することを目的とし、開催するものである。			
【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	保存修復科学センター長 石崎武志
【スタッフ】 佐野千絵、早川泰弘、木川りか、吉田直人、犬塚将英（以上、保存修復科学センター）			
【主な成果】 第27回保存担当学芸員研修、保存担当学芸員フォローアップ研修、第15回資料保存地域研修、および「博物館資料保存論」対策講座を実施し、いずれも高い満足度を得た。			
【年度実績概要】 今回で27回目となる「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」を7月13日から7月24日の2週間実施した（参加者33名）。前半週では主に保存環境や生物被害対策に関する講義と実習を行い、後半週では、文化財の種類ごとの劣化と修復に関する講義を中心とするカリキュラム構成で研修を行った。保存環境実習の現場実践として行う「ケーススタディ」は袖ヶ浦市郷土博物館で実施し、4人ないし5人ずつのグループがそれぞれ実習テーマを設定し、温湿度や害虫管理などに関して調査を行い、結果を発表、質疑応答を行った。この研修により、受講生は、資料保存に対する基礎的な知識と、方法論を習得した。  今年度は他に下記にあげる3つの研修会を行った。 ・「保存担当学芸員フォローアップ研修」 保存担当学芸員研修受講経験者を対象に、保存環境に関する新しい知見や情報を伝えることを目的とし、LED、微生物調査、木材からの化学物質測定法に関する講義を行った（参加者97名、満足度99%）。 ・「第15回資料保存地域研修」 12月13日、高知県歴史民俗資料館において開催し（高知県教育委員会との共催）、温湿度や照明といった保存の基礎に関する講義を行い、好評を得た（参加者76名、満足度98%）。 ・「博物館資料保存論対策講座」 平成24年度より、大学・短大の学芸員課程で必須となる「博物館資料保存論」を担当する予定の大学教官や外部の非常勤講師を対象に、講義内容に関する情報を提供する目的で、3月8日から10日までの3日間実施した。（参加者81名、満足度93.5%）。			
【実績値】 実施回数 1回 研修受講者数 33名 受講者の満足度 100%			
【備考】			

【書式B】
(様式2)

施設名 東京文化財研究所

処理番号 7221

自己点検評価調書

研究所 No.87

1. 定性的評価

観点	適時性	継続性	発展性	正確性		
判定	A	A	A	A		
備考 人文系を専門とする学芸員が多数を占める現状で、自然科学に基礎を置く保存環境に関して学ぶ少ない機会の一つである本研修は、2週間という長期にも関わらず、毎回多くの参加者があり、高い評価を得ている。これは、科学の基礎から実地での応用まで、幅広いカリキュラムで構成しているためである。また、研修終了後も、フォローアップ研修や様々な研究会を通じて、最新の情報を提供している。さらに、受講生とスタッフの間には、インターネットを利用した情報交換や相談を行うネットワークを構築しており、修了後、勤務館において研修で学んだことを実践し、またその成果を共有できる体制を作っている。						

2. 定量的評価

観点	参加者数	満足度				
判定	A	A				
備考 本年の学芸員研修には全国の国公立、また私立の博物館や美術館から33名の保存担当学芸員が参加した。修了後のアンケートでは、全員から「満足」という評価を得たことから、判定を「A」とした。						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	研修参加者数、アンケートによって得られた参加者の満足度ともに、高評価に値するものである。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	毎年、継続して実施しており、参加者、満足度ともに非常に高いレベルを維持するよう、内容の充実をはかってきた。今後は、省エネやエコミュージアムといった環境に配慮した博物館環境が求められることから、これらを研修内容に含めていくことも検討していきたい。

【書式B】
(様式1)

施設名 東京文化財研究所

処理番号 7231

業務実績書

研究所 No.88

中期計画の項目	7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上		
プロジェクト名称	連携大学院教育 東京藝術大学：システム保存学（保存環境学、修復材料学）（(2)-③）		
【事業概要】 1995（平成7）年4月より東京藝術大学大学院と連携して大学院教育を行い、21世紀の文化財保存を担う人材を育成している。システム保存学教室は、文化財の保存環境を研究する保存環境学講座と保存修復に用いる材料について研究する修復材料学講座の二講座から成っている。 各講座3名ずつの研究所員が連携教員として研究教育指導に当たっている。			
【担当部課】	保存修復科学センター	【プロジェクト責任者】	保存修復科学センター長 石崎武志
【スタッフ】 佐野千絵、木川りか、川野邊 渉、中山俊介、北野信彦（以上、保存修復科学センター）、間渕 創（東京藝術大学教育研究助手、保存修復科学センター客員研究員）			
【主な成果】 次に上げる講義と演習を各教官が担当した。保存環境計画論（佐野）、保存環境学特論（石崎、木川）、修復計画論（川野邊）、修復材料学特論（中山、北野）、文化財保存学演習（石崎、佐野）			
【年度実績概要】 次に上げる講義と演習を各教官が担当した。 保存環境計画論（佐野）、保存環境学特論（石崎、木川）、修復計画論（川野邊）、修復材料学特論（中山、北野）、文化財保存学演習（システム保存学担当分）（石崎、佐野） 保存環境学計画論（履修者20名）では、文化財を劣化させる熱・水分・光・汚染空気・生物などが文化財の材質にどのような影響をあたえるか劣化を防ぐにはどうすれば良いか、また文化財の公開に関する法規制等の講義を行った。 保存環境学特論（履修者8名、聴講2名）では、博物館展示室や収蔵庫などの室内におかれた文化財や、屋外に展示されている文化財の保存方法について、主に温湿度の制御や生物被害対策の最新の研究成果を中心に講義、実習を行った。 修復計画論（履修者8名、聴講1名）では、合成樹脂の文化財への応用についてのこれまでの使用例を解説する講義と、合成樹脂を実際に用いて基礎的な実験を行い、その特性について学ぶ実習を行った。 修復材料学特論（履修者7名）では、近代文化遺産の保存科学と文化財資料の保存修復作業およびそれに伴う各種分析等についての講義を行った。 文化財保存学演習（履修者20名）では、各専門分野の教員により、一年間を通して文化財保存の様々な講義・実習を行い、システム保存学担当分として文化財修復材料・保存環境実験などを行った。			
【実績値】			
【備考】			

【書式B】
(様式2)

施設名 東京文化財研究所

処理番号 7231

自己点検評価調書

研究所 No.88

1. 定性的評価

観点	発展性	効率性	継続性			
判定	A	A	A			
備考						

2. 定量的評価

観点						
判定						
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	研究現場から得られる新しい情報を加えるなど、学生にとって有益で高い水準の内容の授業や演習を行うことができた。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	年度当初に予定した授業・演習計画通り、事業は進捗した。

【書式B】
(様式1)

施設名 奈良文化財研究所

処理番号 7232

業務実績書

研究所 No.89

研究計画 No. 66

中期計画の項目	7 地方公共団体等への協力等による文化財保護の質的向上		
プロジェクト名称	京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育の推進 ((2)―③)		
【事業概要】 京都大学大学院人間・環境学研究科及び奈良女子大学大学院人間文化研究科と協定を締結、連携・協力し、文化財保存・活用に関する幅広い知識と高度な技術を兼ね備えた次代の研究者及び技術者の育成を図る。			
【担当部課】	奈良文化財研究所	【プロジェクト責任者】	所長 田辺征夫
【スタッフ】 松井章、小野健吉、小澤毅（京都大学客員教授）大河内隆之、高妻洋成、清水重敦（京都大学客員准教授） 小池伸彦、渡邊晃宏（奈良女子大学客員教授）次山淳（奈良女子大学客員准教授）			
【主な成果】 京都大学大学院人間・環境学研究科において6名、奈良女子大学大学院人間文化研究科において3名の研究職員が、客員教授・准教授として各専門分野に関する講義、演習、実習を通して大学院生の研究指導を行った。なお、平成22年度の受入学生数は京都大学50名、奈良女子大学2名であった。			
【年度実績概要】 京都大学大学院人間・環境学研究科〔共生文明学専攻文化・地域環境論講座文化遺産学分野（客員）〕並びに奈良女子大学大学院人間文化研究科における平成22年度の実施状況については下記のとおりである。 ①小野健吉 「庭園文化論1」【修士課程16名】 ②清水重敦 「文化的景観論2」【修士課程8名】 【博士課程1名】 ③高妻洋成 「保存科学論2」【修士課程7名】 ④小澤 毅 「遺跡調査法論2」【修士課程4名】 ⑤松井章 「環境考古学論2」【修士課程10名】 ⑥大河内隆之 「年輪年代学論1」【修士課程4名】 ⑦小池伸彦 「文化財学の諸問題Ⅰ」【博士後期課程】 「文化財学の諸問題Ⅱ」【博士後期課程】 ⑧渡邊晃宏 「歴史資料論Ⅰ」【博士後期課程1名】 「歴史資料論Ⅱ」【博士後期課程1名】 ⑨次山淳 「歴史考古学持論Ⅰ」【博士後期課程】 「歴史考古学持論Ⅱ」【博士後期課程】			
【実績値】 受入学生数（延人数） 京都大学：50名、奈良女子大学：2名			
【備考】 教官研究費及び学生の教育費は連携大学が支出			

【書式B】
(様式2)

施設名 奈良文化財研究所

処理番号 7232

自己点検評価調書

研究所 No.89

1. 定性的評価

観点	効率性	適時性	発展性			
判定	A	A	A			
備考 効率性：研究水準の社会的評価 適時性：時代の要請 発展性：若手研究者層の充実、人材確保						

2. 定量的評価

観点	受入学生数					
判定	A					
備考						

3. 総合的評価

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
A	文化財保存・活用に関する幅広い知識と高度な技術を兼ね備えた人材の育成を順調に行うことができた。

4. 中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由、改良・改善計画、次年度計画への反映等
順調	連携大学との協定に基づき、計画的かつ継続的に実施できた。次期についても、引き続き連携大学院教育を実施し、若手研究者の育成に寄与する。